



放送大学島根同窓会は2013年4月に発足しました。その発足は全国的には遅い設立でしたが、設立に当たっては、次のようなことを目標としました。

- ・同窓会員の相互の交流と親睦を通して相互研鑽を図る。
- ・島根学習センターの支援・発展と地域・社会への貢献に寄与する。

島根県は周知のように日本海に沿って東西に長い県ですが、県の東部、中部、西部のそれぞれの地域でこれまで公開講座の開催や島根学習センターと同窓生や在学生を交えての懇談会を実施するなどさまざまな活動を行っています。

写真は松江市北堀町にある松江藩第7代藩主、松平不昧公（ふまいこう）ゆかりの茶室「明々庵」である。松江城下町の色濃く残す内堀沿いは、この通りの中央に塩見小兵衛の屋敷があり、真っすぐな長い道を表す縄手をつけて「塩見縄手」という名称になったといわれる。ここから勾配のある坂道を上ると右手に緑を基調にした案内板、左手に階段が出現。階段を上りきったところに石の灯籠に出会う。その傘には徳川家の家紋「二つ葉葵」と伊達家から嫁がれた正室の家紋「仙台笹」が彫刻されている。この高台（赤山）から同じ眼の高さで、

鮮やかに浮かび上がった松江城を望むことができる。松平不昧公（1751～1818、名は治郷）は茶道と禅と究めた風流人で号を不昧公としたことから地元では不昧公で浸透している。その後、不昧流茶道を大成させ茶の湯文化と和菓子文化の礎を築いた。明々庵は安永8年（1779）、松江市殿町の家老有澤家本邸に建設され、不昧公好み茶室として自身もしばしば利用した名席でした。しかし、時代の流れに翻弄され、松江・赤山下、東京・原宿や四谷、松江・萩の谷と移転し、昭和41年（1966）に現在の高台に移築・修復された。明々庵は厚い藁葺の入り母屋造りで間取りは二畳台目と四畳半の席が組み合わせられ、水屋、台所も完備されている。床の間は五枚半の杉柂の小巾板をそぎ合わせ奥行きは浅く、不昧公直筆の「明々庵」の額が掲げてあり、定石にとらわれない不昧公の好みが見られる。隣の「百草亭」から明々庵の侘びた姿と庭園を眺めながら抹茶と和菓子をいただき静かな時間の流れに浸った。



(2018. 9. 2)